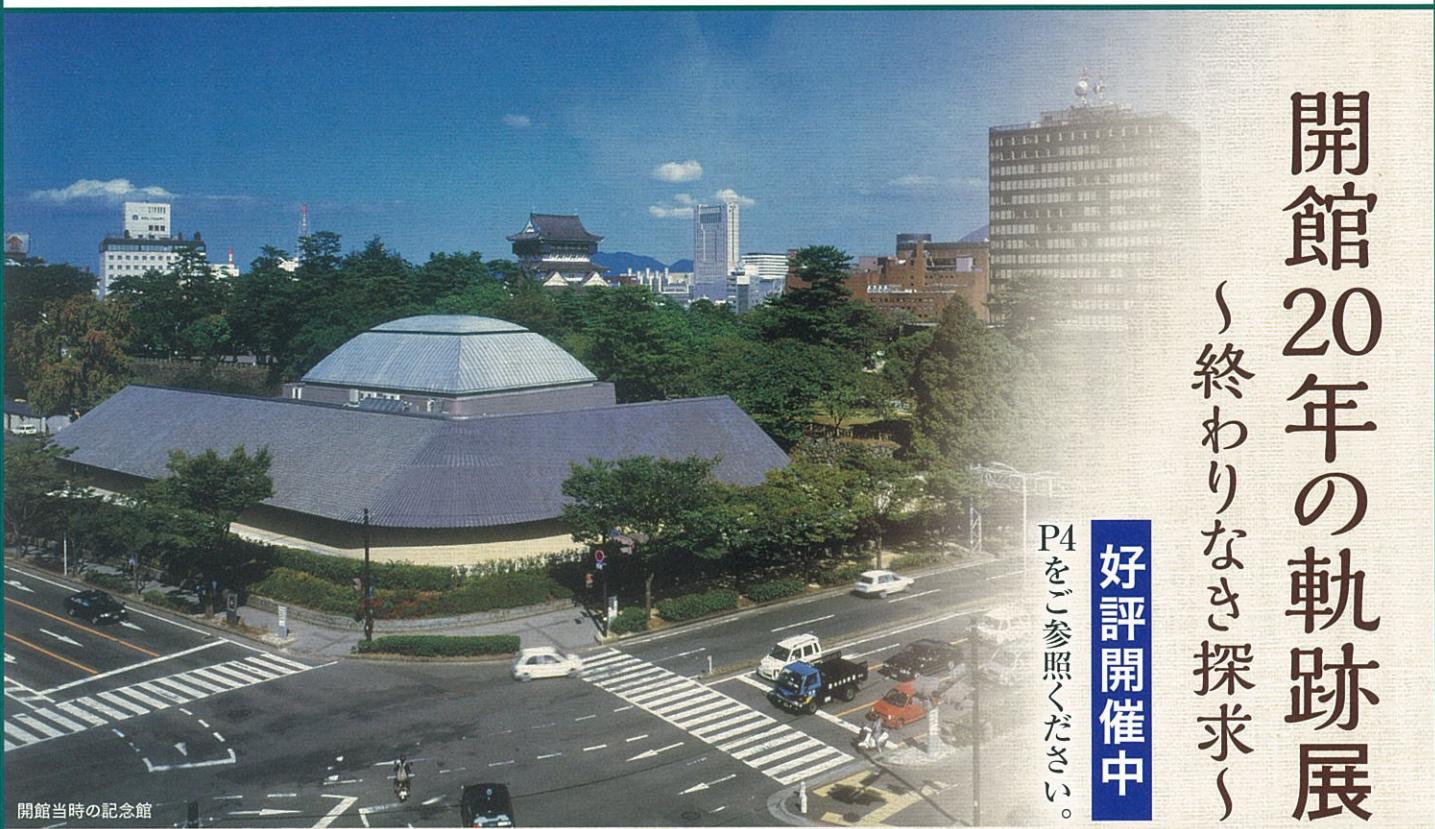


松本清張記念館

◆館報◆
2018.3
第57号



開館当時の記念館

開館20年の軌跡展
～終わりなき探求～

好評開催中

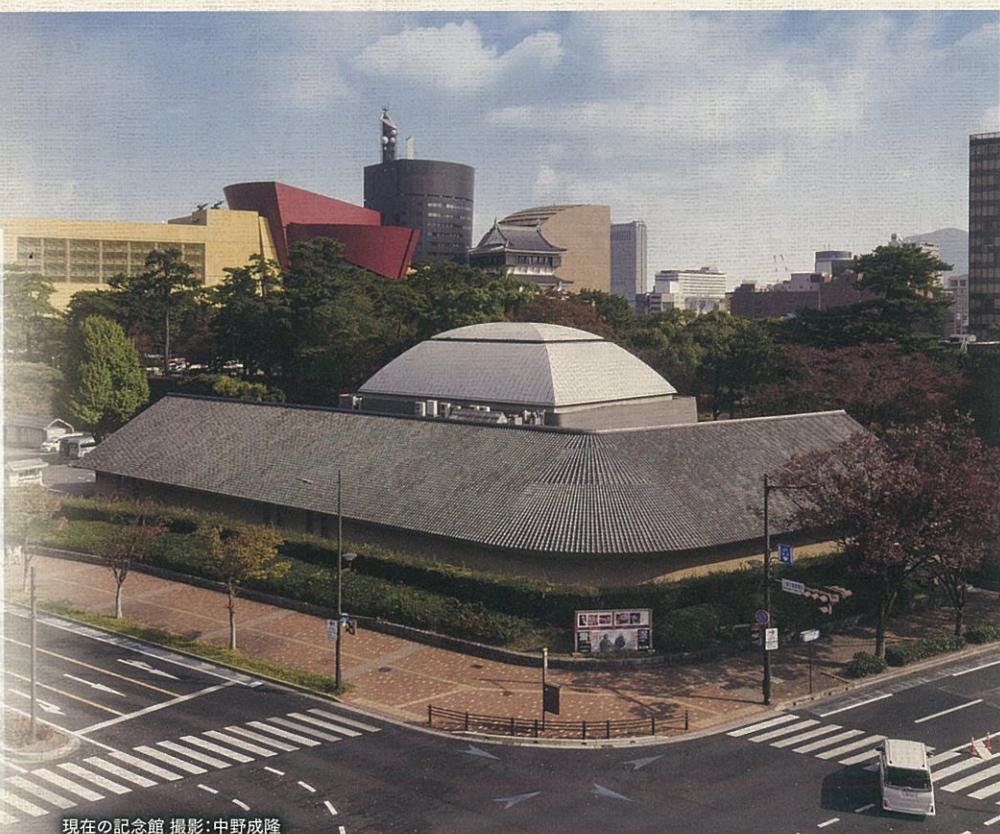
P4をご参照ください。



あれから、20年。そして、今から。

目次

松本清張研究会 第37回研究発表会	1
開館20周年記念ブレ事業	2
「開館20年の軌跡展～終わりなき探求～」	3
開館20周年記念イベント	4
開館20周年企画 あふれる想いを	5
清張オマージュ作品募集	5
展示品紹介	6
点描 作品の舞台を訪ねて	6
研究誌「松本清張研究」第十九号発刊	7
友の会活動報告	7
トピックス	8



現在の記念館 撮影:中野成隆

松本清張研究会 第37回研究発表会

平成29年12月2日(土)
午後2時 東京学芸大学

講演

松本清張

「両像・森鷗外」を読む

山崎 一穎

森鷗外記念館(津和野)館長
跡見学園理事長



清張が当時指摘していたことについて、いまだに私たち鷗外研究者が超えられない視点と、いうものが浮き彫りになってしまいます。「両像・森鷗外」を読む際に留意すべきは、この作品が執筆された当時(初出連載は昭和六十年、單行本化は平成六年)の鷗外研究の水準と照らして評価が必要だという点です。研究は日々進んでおり、当然それ以降に判明した資料等もあるわけですから、いま現在の水準から批評すべきではありません。

鷗外の墓参について

はじめに

私は清張研究家ではありませんが、清張の「或る小倉日記伝」について論文一本だけ書いたことがあります。清張が書いた鷗外関係の作品としては、他にも「鷗外の婢」や「両像・森鷗外」といったものが挙げられるでしょう。特に清

張は「両像・森鷗外」の中で鷗外研究者たちの名前を挙げ、その解釈や認識について批判しています。しかし、これまで鷗外研究者たちは、これらの作品をまとめて論じてきませんでした。

確かに「両像・森鷗外」の記述は、あちこちに話題が飛んで読みにくい部分もあります。しかし、それらを一つずつ丁寧に読み解いていくと、

鷗外の離婚と西周との関係について

鷗外は明治33年春、軍医部長会議出席のため小倉から上京する途上で、近江にある祖父の墓に参っています。清張は「両像・森鷗外」の冒頭でこの墓参について取り上げ、鷗外研究者たちはその理由や目的についてほとんど問題にしていないと指摘しています。さらに鷗外の「小倉日記」をはじめとする様々な文献の記述をふまえた上で、清張自身の考察を述べています。それを要約すると、

鷗外の結婚や離婚に関しても、清張はかなりの

紙幅を費やしています。鷗外はドイツ留学から

帰国した翌年、西周の媒酌で最初の妻赤松登

志子と結婚しましたが、すぐに離婚に至りました。この経過には、鷗外留学時の現地女性との恋愛、華族である赤松家との家風の相違、そして嫁姑問題といった諸々の事情が関係していた

と考えられます。が、いずれにしても森家の側か

らの一方的で理不尽な離婚であった模様です。

鷗外の幼い頃からいろいろと面倒をみていた人物です。さらに西周と登志子の父とは懇意の仲でもありました。

論理展開になる」と映ったようです。つまり、先述した清張の根本的な疑問に対し、正面から答えたものはなかったのです。

ただしこの件に関して清張は、当事者である鷗外・西周両名の日記等には明確な記述が多く、それ以外の資料も関係者の視点から書かれたものや後年の子孫による回想が多いことなどを挙げ、

感情的なわだかまりはあつたにせよ、彼らの一方的で理不尽な離婚であった模様です。がなされたわけではなく、鷗外が謹慎の意を表して直接の交流を遠慮した結果、それが周囲の目には出入り禁止のように映ったのではないか

に遅れて津和野へ帰る途上の近江で斃死した。代々官仕えの医者をしてきた森家にとって、道中で藩主の健康を管理すると、いう勤めを果たせなかつた白仙は、いわば不忠の臣である。鷗外は自身の当時の境遇と、亡き祖父を重ね合わせて思慕の念に駆られ、生涯でただ一度だけ、このタイミングで祖父の墓に参つたのではないか

がかなり立腹したはずだと推理しました。実際に西家の子孫が後年、「西周が鷗外を破門し出入り禁止とした」旨を語っていることも挙げています。しかしその一方で、西周が没した直後、西の養子から依頼を受けた鷗外は『西周伝』を執筆しているのも事実です。ここで清張は、「なぜ鷗外は自分を破門したはずの人物の評伝を書いたのか」「なぜ西周は先代が破門したはずの鷗外に執筆を依頼したのか」という疑問に至つたわけです。

もちろん鷗外の離婚や西周との関係についても、それまでにも鷗外研究者たちが様々な研究を重ねています。そのなかには、この離婚は鷗外による「封建家庭への反逆、旧幕臣団への挑戦」とする見解もありました。しかしこれらが清張の目には、「その解決を見いだし得ないままに、他に求めようと苦心している」研究家の大蔵は、離婚の事情からすんで厄介な論理展開になる」と映つたようです。つまり、先述した清張の根本的な疑問に対し、正面から答えたものはなかったのです。

ただしこの件に関して清張は、当事者である鷗外・西周両名の日記等には明確な記述が多く、それ以外の資料も関係者の視点から書かれたものや後年の子孫による回想が多いことなどを挙げ、

との結論に至っています。このように「破門」がなかつたとする点については、大方の鷗外研究者の認識とさほど変わりありません。

清張の「読み」

本当の意味で清張の読みが鋭いと思わせる

のは、この辺りの経験が鷗外の後年の作品に反映されているのではないかという指摘です。鷗外は後妻志げと母との嫁姑問題をもとに

「半日」という作品を執筆したと一般的には言われていますが、先妻の登志子との婚姻期間中にすでに同様のトラブルが起きていたことを、清張は見抜いています。さらに、鷗外が晩年執筆した史伝「伊澤蘭軒」における尾藤一洲と

頼山陽の関係が、西周と鷗外の関係に相似していることにも言及しています。こうした視点は、それまでの鷗外研究者の間にはなかつたと言えます。

清張はその他にも、鷗外研究者たちに対して様々な批判・指摘を行なう上で、自身の考え方を述べています。鷗外の「両像」つまり官僚

と小説家という二つの立場で捉える際の見方や、小倉勤務は本当に「左遷」だったのか、そして鷗外の殉死觀やいわゆる「史伝」作品をめぐる議論まで、たいへん多岐にわたる内容です。これら多くのから伝わつくるのは、清張自身が感じた疑問や謎とともに、資料に直接あたつて読み取つた事実と、それを取り巻く状況から導いた推理とを組み合わせ、答えを導きだそ

うという姿勢です。やはりこれは日頃から作家として、事実と虚構をうまく織り交ぜて物語を組み立てている清張の得意とするところだと思います。

実際に私たち鷗外研究者が清張の「鷗外の婢」といった作品を「読」しても、どこが事実でどこが清張の創作なのかを判別するのは困難なくらいです。

まとめ

以上のとおり、「両像・森鷗外」における清張の読みは、それぞれの部分で見ると鋭いと思われるところがあります。しかし残念なことに、全体を貫くつの筋のようなものがこの作品では見えにくくなっているようにも感じます。これは清張自身の晩年の体調等も関係しているのかもしれません。

ただし、清張の鷗外に対する理解の集約ともいえるようなものは、この作品を執筆する

ずっと前の時点ですでに存在します。昭和40年、発足して間もない森鷗外記念会の講演で清張が語った内容です。この「かのやうに」について」という講演の要旨が機関誌「鷗外1号」に掲載されており、その結びの部分で清張は

本研究では清張の政治思想を検討した。まず、清張のフィクション作家としての才がノンフィクションを描く際にも活かされたことを指摘し、続いて清張が自らの在野という立場を自覚し、その意義について深く考察していたことを解明した。

清張は滝川事件や一二六事件などの研究を通して天皇制そのものに着目し、日本の言論界に継承されている天皇制イデオロギーと切り結ばねばならないと考えた。これが清張に近代日本史諸著作を執筆させた根本動機である。「象徴の設計」における天皇論が政略的で史実に反する俗論であるとの批判を経て、清張は自らの天皇論を歴史著述によって実証すべきとの考えに至り、その後の「昭和史発掘」や「北輝論」では歴史評論として客観性を持たせた記述をする。長年にわたり史料の収集や研究に努め、「万世三系」天皇制の研究では天皇の歴史を古代から叙述し、「神格天皇の孤獨」では明治以降の天皇とその周辺の権力関係を描いた。

また清張は天皇制とともに、日本社会に延々と続く官僚的支配体制をも批判した。「現代官僚論」で日本におけるエリート偏重を批判し、「史観宰相論」ではより長期的な視座に立つた官僚論を展開し、その集團制に注目した「私觀・昭和史論」では、責任の所在が不明確になるという問題点を指摘している。

倉科 岳志
京都産業大学准教授



要旨

—言論界、大学、歴史記述

松本清張の政治思想

森鷗外記念会の講演

皇家の歴史を古代から叙述し、「神格天皇の孤獨」では明治以降の天皇とその周辺の権力関係を描いた。

また清張は天皇制とともに、日本社会に延々と続く官僚的支配体制をも批判した。

「現代官僚論」で日本におけるエリート偏重を批判し、「史観宰相論」ではより長期的な視座に立つた官僚論を展開し、その集團制に注目した「私觀・昭和史論」では、責任の所在が不明確になるという問題点を指摘している。

そして清張は権力側のみならず、権力を批判し方向転換を迫るべき大学や知識人、そして新聞の姿も「小説東京大学」や「火の虚舟」等で描いた。清張は天皇制という根本問題に加え、歴代の指導者や社会で重要な役割を担うべき言論界が決定的な局面で間違つたと考えたのである。

このように清張が近代史にこだわった最大の理由は、自らの半生を苦しめていた昭和という時代を描き、その原因を一つの物語として、当時の日本に生きた人々や後世の人間と共有したいとの思いであった。つまり、「昭和の苦しさ」の原因とは、明治に構築された天皇神權主義とそれを支えた官僚制にあり、これらに抵抗しようにも、知識人は及び腰であり民衆も絶えず抑えられ続けた」というのが清張の導き出した答えである。

近代国家の中で苦しみを味わいながらも、ナショナルな意識から自由であり続け、言論界の中核となつた清張には、自分こそが社会や政治を批判すべき責任あるのだという使命感があつたのではないか。昭和史学史に優れた貢献をなしたその意志は現在、次の世代に継承されている。

期間延長の
おしらせ

現在開催中 開館20周年記念プレ事業

開館20年の軌跡展 ～終わりなき探求～



展示期間

好評につき、開催期間を
5月20日(日)まで延長します。

会場

松本清張記念館 地階企画展示室
地階のみ観覧無料、常設展示は有料です。

まもなく平成も終わりを迎えます。
記念館のあゆみとあわせて、皆様のこの二十年を
ふり返る機会になると幸いです。ぜひご来館ください。



明るく落ち着いた雰囲気の会場内には、著名の方々からお寄せいただいたメッセージなど、ここでしかご覧いただけない貴重なものを多数展示しております。



これまでに開催した全企画展のポスターを一面に掲示した壁や、全長7メートルにわたる記念館の年譜など、圧巻の展示で皆様をお迎えいたします。

松本清張記念館は、平成30年8月4日に開館20周年を迎えます。

開館20周年記念イベント

- 特別企画展 前期・「清張オマージュ展」、後期・「砂の器展」を開催
- 清張ドラマ関連トークショー(6月) 清張ドラマのプロデューサーと脚本家によるトークショー
- 開館20周年記念講演会(8月) 開館記念日に、作家・横山秀夫氏による講演会を開催
- 「砂の器」シネマ・コンサート(11月) 九州初、「砂の器」の映画と生演奏の融合

〈友の会との共催事業〉

● 文学散歩(ツアー)

「ゼロの焦点」の舞台・能登、金沢へ

● 朗読劇

前進座による朗読劇が、今年は2日連続公演

〈その他・シネマ関連イベント等〉

詳細は市政だよりやチラシ等でご案内します。

20周年
記念企画

あふれる想いを… 5

いよいよ、開館20周年の年に突入しました。この記念企画も残すところあと3回となります。今回は、元朝日新聞社社長で、松本清張と親交が深かった中江利忠さんに、とびきりの思い出「弔辞朗読始末記」を、寄稿していただきました。



元朝日新聞社社長
中江 利忠 氏

弔辞朗読始末記

松本清張さんを想い出す時、必ず蘇ってくるのが平成四年八月十日午後一時半、青山斎場で開かれた「おわかれ会」で千百人余の参会者を前に、私が一人だけの追悼の辞を朗読した顛末であります。

清張さんの悲報に接したのは、四日夜十一時過ぎのご他界から半日後、私は夏休みの伊豆一泊旅行の帰り道で、マイカーのラジオで聴いた五日正午のニュースでした。四月二十日の脳出血で東京女子医大病院で手術、リハビリが順調に進んでいると聞いていただけに、見舞いにも行けなかった後悔から、浜田山の私の自宅で着替えるのもどかしく、その先一キロ足らず、行きつけの高井戸東の清張さん宅に急行しました。

長女・淑子さんの夫、当時駐イタリア大使の渡辺幸治さんと奥に呼び込まれ、ちょうど親族会議が終わった結論を聞かされました。「おわかれ会」は十日、弔辞は一人だけにして、出身の朝日新聞の代表で、作品の舞台を朝日の専用機で空から確認する念願の旅を八カ月前に共にしたばかりの中江さんに決めた、との趣旨でした。十日は朝日新聞主催、高校野球甲子園大会の開会式に当たるので難しい、と答えますと、「時間をずらすから、どうしてもやってほしい」との再三の懇望で、光栄もあり受諾することにしました。

早速、弔辞の準備にかかりました。六日には清張さん宅を再訪してご遺族からあらためて取材。七日から九日までも関西での予定が立て込んでいたため、東京本社の調査部から取り寄せた来歴のコピーを、夜ホテルで整理しながら書き進めて携帯用ワープロに打ち込み、奉書紙に筆ペンで直接書き上げて完成したのが、当日の十日午前一

時半ごろでした。

当日がまた、大変でした。午前九時からの甲子園大会開会式では、大会会長の私の挨拶の後、いつもは文部大臣が挨拶して始球式もやることになっていましたが、大臣が政務で来られなくなつたため、慣例により代わりの政務次官が挨拶だけして、始球式は私がやることになったのです。睡眠不足のまま投球して記念のボールを受け取ると、外に待たせた車に飛び乗り、車中で大会ユニホームを喪服に着替え。西宮海岸の砂地に待つ、つい数分前にその始球ボールをグラウンドに落としたばかりの社のヘリに移乗して、伊丹の大坂空港へ。八カ月前に清張さんと同乗した社のジェット機に乗り換えて羽田へ。ここで東京本社のヘリに乗って築地の本社屋上。玄関に待つ車の中でサンドイッチをつまむと、甲子園から二時間余りの目的地、青山斎場がそこにありました。

斎場入口で平松守彦・大分県知事から「さっきテレビで見た甲子園からどうやって来たの?」と聞かれるほどの、アクロバットでした。弔辞の中で私はこう述べました。「この会に間に合うように、朝日新聞のジェット機とヘリコプターを乗り継いで駆け付けました。ジェット機の隣の空席には、八カ月前に作品の舞台に向けてシャッターを切り続けた青年のような清張さんが、まぼろしとなって鎮座しておられました」

こうして約四一〇〇字の「お別れのことば」を、私は十五分かけて読み上げました。新聞記者を超えたデータ主義で私にも懇切なご指導を頂いた、清張さんとの十数年間でした。その私を、記者時代のようにこんなに走らせ、リフレッシュもさせてくれた斎場の清張さんには、文字通り「敬愛」の一語しかありません。

清張オマージュ作品を教えてください!

松本清張記念館は今年開館20周年を迎えます。これを記念して当館では「清張オマージュ展」を夏期に開催する予定です。
松本清張や、清張作品への愛を、文章や絵、漫画などの作品で表現したものを、できるだけ多く紹介したいと思っています。
ご存知の方は、是非とも情報を寄せください。**お待ちしています!!**

例えば……

この前読んだ小説に
清張が出てきたよ!

清張の本が出てくる
漫画があった!

著名人が、好きな作家に
清張の名前を挙げていた



オマージュ:hommage(フランス語)とは ①尊敬。敬意。②賛辞。献辞『広辞苑』より

応募・お問い合わせ先

〒803-0813 北九州市小倉北区城内2-3
松本清張記念館 オマージュ係

TEL 093-582-2761 FAX 093-562-2303
E-mail shi-seichou@city.kitakyushu.lg.jp
※当館の公式ウェブサイト、トップページから送信できます。

たくさんの情報をありがとうございます。

研究誌「松本清張研究」～第十九号発刊～

特集 清張の多様性

座談会

「多様なる清張の世界」

阿刀田高・保阪正康・山田有策・藤井康栄

論文

松本清張に本当の『天皇実録』を書いてほしかった 佐野眞一

松本清張『昭和史発掘』の位相 成田龍一

松本清張の評伝小説 松本常彦

松本清張古代史論 久米雅雄

—清張の生い立ちと大分と

文学的環境と歴史家への道

寄稿(再録)

松本清張記念館開館二十周年に寄せて

投稿

松本清張「穴の中の護符」と『半七捕物帳』

—「擬本」という方法

吉野泰平

記念館だより

編集後記

記念館研究ノート

昭和の終焉と呪術の世界——松本清張と村上春樹 柳原暁子

友の会活動報告

● 清張サロン

清張サロンは毎回、清張作品や清張に関する話題をテーマに、講師を招いてのお話や参加者との意見交換・交流を目的に開催しています。

昨年11月と2月に、下記のとおり2回開催しました。

第2回清張サロンは、松本清張と池波正太郎をテーマに、二人の作家の共通点などについてお話をいただきました。

第3回は「松本清張記念館開館20年の軌跡」と題し、当館職員がリレートーク形式で、開館当時のエピソードや記念館の取り組みなどについて話しました。

第2回 平成29年11月25日(土)14時～16時 参加者52名

- 会場：記念館 企画展示室
- テーマ：「松本清張と池波正太郎」—時代劇の魅力—
- 講師：加島巧氏(長崎外国語大学教授)

第3回 平成30年2月11日(日)14時～16時 参加者34名

- 会場：記念館 地階ホール
- テーマ：「松本清張記念館開館20周年の軌跡」
- 講師：松本清張記念館職員
(丸田館長代行、小野学芸員、柳原学芸員、下澤主任)



● 生誕祭

平成29年12月15日(金) 参加者52名

記念館 企画展示室

松本清張さんの108回目の誕生日を友の会会員でお祝いする「生誕祭」を開催しました。今回は、筑紫女学園大学教授の大津忠彦さんに「清張さんの『108歳』に学ぶ」というテーマで講演いただいた後、友の会の小林慎也会長と一緒に、清張さんに代わってケーキのローソクを吹き消していただきました。

歓談中に、丸田館長代行による記念館の事業報告等を行い、最後に、山崎笠山さん(尺八)、宮本直美さん(箏)によるミニコンサートを鑑賞しました。

各テーブルに配られたケーキとコーヒー、講演、演奏と盛りだくさんの内容で、和気あいあいと会員同士の交流も深まる生誕祭でした。



● 友の会会員 更新のお知らせと新規会員募集 ●

松本清張記念館友の会は8月1日～翌7月31日を1年度として、文学散歩や清張サロン、講演会、生誕祭、「友の会だより」の発行、記念館に関する情報提供など多彩な事業を展開しています。

年会費は3,000円です。皆様のご入会を心よりお待ちしています。

友の会入会のお申込は、松本清張記念館友の会事務局まで
TEL.093-582-2761



平成30年度
中学生・高校生

読書感想文コンクール

若年層に清張作品に親しんでもらうとともに、表現力を学び、豊かな心を育む契機となればという思いから始まりました。
新時代を切り開く若者達へ、探求の人・松本清張の精神の伝達を働きかけるものです。

応募対象 全国の中学生・高校生

課題図書 中学生・高校生ともに下記から1作品

「西郷札」(『西郷札』新潮文庫、『西郷札』光文社文庫)

「顔」(『張込み』新潮文庫、『声』光文社文庫)

「ゼロの焦点」(『ゼロの焦点』新潮文庫)

応募方法

○中学生・高校生ともに1200～2000字程度の読書感想文を書き、応募用紙に添えて提出してください。

○手書き、ワープロどちらでも結構です。ただし全体の字数がわかるよう応募用紙に1行の字数×行数を記入してください。

○原稿は自作で未発表のものに限ります。なお応募原稿はお返しいたしません。必要な人はコピーをおとりください。

応募締切 平成30年9月30日(日) ※当日消印有効

応募先 〒803-0813 北九州市小倉北区城内2番3号

松本清張記念館 読書感想文コンクール係

※応募用紙は記念館HPからダウンロードできます。

選考 松本清張記念館内の選考委員会により選考します。

発表

最優秀賞、優秀賞の受賞者には、11月中旬頃、本人と学校に通知し後日表彰式を行います。なお、入選の結果は、当館発行の「館報」で発表する予定です。その場合、著作権は松本清張記念館に帰属します。

賞 (受賞人数等変更の場合もあります。)

○最優秀賞(1人)

○優秀賞(中学の部…1人)(高校の部…1人)

○佳作(中学の部…3人)(高校の部…3人)

※なお、最優秀賞は中学の部、高校の部で各1回ずつの受賞と限らせていただきます。最優秀賞受賞後の応募も歓迎します。すでに受賞した人からの応募作品が賞に該当する場合は〈特別賞〉として当館発行の「館報」掲載を予定しています。

●協力 モンブランジャパン

**応募先
問い合わせ**

〒803-0813 北九州市小倉北区城内2番3号 松本清張記念館 読書感想文コンクール係
TEL 093-582-2761 FAX 093-562-2303

講演に行ってきました

平成29年度も、松本清張の魅力をより多くの皆様にお届けするために、清張の人物や作品、北九州への想いなどをテーマに講座、講演を行いました。

日付	主催者・会場等
9/13	白野江市民センター
10/7	記念館・生涯学習指導者育成セミナー
10/25	小倉ロータリークラブ
11/8・15	貴船市民センター
11/27	記念館・はじめて聴く清張講座④
12/26	北九州市立大学
2/2・9	北九州年長者研修大学校(穴生学舎)
2/8	青葉市民センター
2/15	門司元気塾
3/24	「点と線」香椎桜まつり(香椎公民館)

●編集後記● 寒かった冬が終わり、

記念館周辺にも桜の季節が巡ってきました。4ページにも書いていますが、開館20周年の記念イベントが始まります。20年という時の重みを感じつつ、ワクワクしながら準備を進めています。「開館20年の軌跡展」も好評により、5月20日まで延長しております。みなさまのご来館を心からお待ちしております。

(K.H.)



編集・発行

松本清張記念館

〒803-0813

北九州市小倉北区城内2番3号

TEL 093(582)2761

FAX 093(562)2303

<http://www.kid.ne.jp/seicho>

制作 (株)ハーティブレーン



イラスト:山藤 章二

- 開館時間 午前9:30～午後6:00(入館は午後5:30まで)
- 休館日 年末(12月29日～12月31日)
- 観覧料 一般/500円(400円) 中・高生/300円(240円)
小学生/200円(160円) ()は30人以上の団体
- アクセス 小倉駅から徒歩15分 西小倉駅から徒歩5分
小倉駅からはバスをご利用いただくと便利です(小倉城・松本清張記念館前下車)
車: 北九州都市高速、大手町ランプより5分

